

愛生会看護専門学校

学校長 小澤 正敏

1. 概要

本校は今年で開校 23 年、送り出した卒業生は 561 名にのぼります。患者・家族の尊厳を守り、安全・安楽な看護を提供できる看護師の育成を目指しています。そのためには教員一人ひとりの教育力の向上に力を入れています。研修会、学会などへ積極的に参加するようにしています。

2009 年には第 21 回日本看護学校協議会学会を、当校も会員校である私立看護学校協議会の 5 校の看護学校が主催校となり、「育てよう 看護の力 —Head・Heart・Hand—」をテーマに、名古屋国際センターで 2 日間開催いたしました。学会での研究発表もしました。

学生は実習での貴重な体験をケーススタディとしてまとめています。毎年、愛知県看護協会が主催する「愛知県看護研究学会」で今年は 4 名の学生がそのケーススタディの発表をしました。

教員も学生も学内での活動だけでなく、学外にも目を向け、視野を広く持てるように努めています。

2010 年度には新カリキュラムが 2 年目となります。新カリキュラムの趣旨の 1 つである技術実践力の強化として基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱの前に、臨地実習でよく遭遇する事例を設定し技術力を磨いて実習に臨めるように考えています。初めての科目で模索している段階でもありますが、患者・家族が安心して受けられるケアを目指しています。

定員 1 学年 30 名の小さな学校ですが、この小ささを武器にして学生の個性を大切に、きめの細かい教育をしています。

2. 2009 年活動実績

教育理念、教育目的、教育目標、教育課程 別紙参照

教員・講師の状況数

	教員数 (名)	講師数 (名)
2008 年度	12	33
2009 年度	10	37

受験者数

	志願者数 (名)	受験者数 (名)
推薦入試 (23 回生)	15 名	15 名
一般入試 (23 回生)	41 名	33 名

愛生会看護専門学校

学生の出身地（第20回生～第23回生まで）

回生	名古屋市 (名)	愛知県 名古屋市を除く (名)	岐阜県 (名)	愛知・岐阜県外 (名)
20	9	14	4	0
21	19	13	1	0
22	20	9	3	2
23	10	15	5	7

学生の状況数

回生	入学者数 (名)	卒業生数 (名)	進学者数 (名)	国家試験 合格率 (%)	卒業後の 就職状況
18	28	23	0	96	医療法人愛生会
19	29	18	1	100	医療法人愛生会
20	27	21	0	90	医療法人愛生会
21	33	26 見込み			
22	34	在学中			
23	32	在学中			

オープンキャンパス



2009年度は7月25日(土)、8月28日(金)、9月5日(土)行いました。対象は高校生及び社会人で、本年度は140名の参加があり、例年の2倍の人数でした。愛生会看

愛生会看護専門学校

護専門学校の良さを理解していただくために、学校概要の説明、学校見学、公開授業・実習体験、在校生との茶話会を企画しています。特に在校生との茶話会は学校の様子が参加者に身近に伝わるため人気があります。在校生のボランティアでの大活躍が参加者に良い影響力をもたらしています。参加者が一人でも多く受験をしてもらえるように教職員、在校生ともども一丸となって取り組んでおります。

2010年度は、7月24日(土)、8月27日(金)、9月4日(土)に行います。第21回日本看護学校協議会学会では研究発表会の運営、懇親会の司会などを担当しました。懇親会ではシンポジストの静岡県立大学大学院看護学科教授の紙屋克子先生と看護の心と技術についてお話をさせていただきました。看護教育をより一層充実させていく必要性を実感しました。

新カリキュラムには災害看護が新科目となります。それに先駆け、赤十字災害救急法基礎講習・救急員養成講習を教員1名が受講し、「赤十字救急法救急員」の認定を受けました。

日本看護技術学会第8回学術集会テーマ「私たちの技術は何を支えるのか?～人々の生命・生活・希望～」に参加し、基礎看護技術の講義に活かしています。



愛生会看護専門学校

3. 学術発表等

第21回日本看護学校協議会学会では、校條英子が「チームナーシングを実践した学生の満足度の自己評価と要因の検討ー過去5年間のアンケート調査の分析よりー」を発表し、会長賞をいただきました。

平成21年度愛知県看護研究学会には4名の学生が発表をしました。

木下 美沙 「患者が歩んできた人生を理解することの重要性について～老年期の患者とのかかわりを通して～」

古川みなみ 「終末期における患者のQOL向上に向けてのケア」

平野加奈子 「発語の少ない患者への関わり～刺激を与えた援助を通し患者の反応から振り返る～」

岸本留奈 「掻痒感・皮膚トラブルのある患者への下着作成を試みて」

どの学生も実習中にもかかわらず、文章の手直し、原稿の音読など発表に向けて十分準備しました。その成果があり立派に発表することができました。

発表終了後は金城学院大学学長柏木哲夫先生のテーマ「終末期における患者家族とどう向き合うか」講演を聴きました。今後の実習に活かせる内容で、学生もいつになく真剣な眼差しでした。